

水産海洋地域研究集会

第9回伊勢・三河湾の環境と漁業を考える  
—豊かな海と魅力ある漁業の再生を目指して—

共 催：水産海洋学会、愛知県水産試験場、三重県水産研究所  
後 援：愛知県漁業協同組合連合会、三重県漁業協同組合連合会  
日 時：2013年11月9日（土）13:00～16:45（受付12:30～）  
会 場：名古屋港湾会館（愛知県名古屋市港区港町1-11, TEL:052-659-1700）  
コンビナー：日比野 学・宮脇 大（愛知水試漁生研）・蒲原 聡（愛知水試）・水野知巳・  
国分秀樹・羽生和弘（三重水研鈴鹿）

挨拶 和田時夫（水産海洋学会長） 13:00～13:05  
趣旨説明 日比野 学（愛知水試漁生研） 13:05～13:15

基調講演

・ 底層溶存酸素量の環境基準化に向けて  
堀口敏宏（国環研） 13:15～13:45

座長 中村元彦（愛知県水産課）

- (1) 伊勢湾の貧酸素水塊と底生魚介類 13:45～14:10  
水野知巳・国分秀樹・羽生和弘（三重水研鈴鹿）
- (2) 三河湾における貧酸素水塊と底生魚介類 14:10～14:35  
曾根亮太（愛知水試）
- (3) 内湾小型底びき網漁業からみた貧酸素水塊 14:35～15:00  
日比野 学（愛知水試漁生研）

（休憩）

座長 国分秀樹（三重水研鈴鹿）

- (4) 水産生物の浮遊期に及ぼす貧酸素水塊の影響 15:10～15:35  
山田 智・蒲原 聡（愛知水試）
- (5) 数値モデルを用いたアサリ浮遊幼生の貧酸素応答予測 15:35～16:00  
市川哲也（(株)SAT）

座長 蒲原 聡（愛知水試）・宮脇 大・日比野 学（愛知水試漁生研）

総合討論 16:00～16:45

開催趣旨：伊勢・三河湾では、夏季の貧酸素水塊の規模が依然大きく、シャコ・カレイ類・アカガイなどの底生水産資源の資源量は低迷したままである。本海域では、これまで干潟・浅場の造成による水質浄化機能の回復が図られてきたが、その効果を検証していくとともに、今後も内湾漁業にとってどのような環境が適当か検討していく必要がある。漁業サイドから見た環境基準としては、生産性に係わる栄養塩やクロロフィル濃度、生き残りや分布に係わる底層の溶存酸素濃度（以下DO）などが考えられる。特に、底層のDOは、内湾の水産資源に与える影響が大きく、健全な生物相や生態系を維持するための新たな水質基準として設定されることになっており、生息域の確保や再生産に必要なDO条件の整理が行われつつある。しかし、底生生物の低DO耐性に関する知見は水産対象種でもあまり多くなく、漁場で分布が制限される具体的なDO、種や発育段階による応答の違いなど、目標設定する上で必要な情報は十分でない。

本研究集会では、生物とDOの関係をレビューし、健全な生態系と持続的な漁業生産が担保されるDOの基準を、生物群集の応答を考慮してどのように考えたらよいか議論する。